

令和4年度ステップ・アップ研修実施報告

1 目的

ステップ・アップ研修は、初任者研修を踏まえるとともに、1年間の教員としての経験をもとに現職教員研修の一環として、実践的指導力と使命感及び幅広い知見等のより一層の向上を図る。

2 期日

第1日（7月28日）オンライン型研修
第2日（8月5日）オンライン型研修

3 受講者数

268人
小学校等教諭 154人
中学校等教諭 114人

4 日程【午前：所属校で講義動画視聴／午後：オンラインでの班別協議】

<第1日> 令和4年7月28日（木）

- ・講話「ステップ・アップ：進歩すること。向上すること。」
東部教育事務所 所 長 鈴木 美幸
- ・講義1「東部の教育を担う教員として」
東部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当
主席指導主事 秋永 恵里
- ・講義2「教育公務員としての服務規律と不祥事の防止」
東部教育事務所総務・人事・学事担当
主席管理主事 田村 嘉則
- ・講義3「生徒指導に関する現状と課題」
東部教育事務所 主任指導主事 野見山 伸一
- ・講義4「特別支援教育の視点を生かした授業、学級経営の充実」
東部教育事務所 指導主事 秋山 香奈子
- ・協議1「生徒指導に関する課題と指導の工夫」
- ・協議2「特別支援教育の視点を生かした授業・学級経営における指導の工夫」

<第2日> 令和4年8月5日（金）

- ・講義5「道徳教育の充実」
東部教育事務所 指導主事 武林 慈子
- ・講義6「よい授業のポイント（授業づくりについて）」
東部教育事務所 指導主事 飯島 忠
- ・講義7「先輩に学ぶ」
幸手市立吉田小学校 教 諭 三ノ輪 真人
- ・受講者代表「教員生活2年目を迎えて」
宮代町立須賀中学校 教 諭 林 雄大
- ・協議3「道徳授業における指導方法の工夫」
- ・協議4「学習指導における実践と今後の課題」

5 内容・受講者感想

講話

ステップ・アップ：進歩すること。向上すること。

東部教育事務所 所長 鈴木 美幸

- 1 「昨年度からステップ・アップしているものは何ですか」
- 2 「僕らはなぜはたらくのか」 (池上彰著)
- 3 学級づくり

東部地区ステップ・アップ研修会	R4. 7. 28 (木)
ステップ・アップ：進歩すること。向上すること。	
東部教育事務所長 鈴木 美幸	
1 「昨年度からステップ・アップしているものは何ですか」	
※自分の言葉で整理する。	
<div style="border: 1px solid black; height: 40px;"></div>	

【受講者感想】

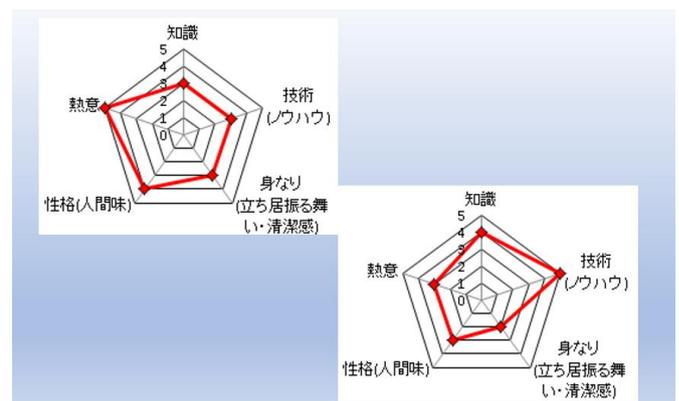
- ◎昨年度と比べて自分の何が成長して、何が課題なのかなど、自分自身をしっかりと振り返ることができた。また、「受け」と「攻め」の話聞いて、目の前の子供たちの実態に合わせて発問を変えたりする対応力を今後、身に付けていく。
- ◎1年目からの変化として、成長できたところ、課題点などを改めて考えることができた。講義の中で、「虫の目」「鳥の目」「魚の目」というお話があったが、様々な視点から目の前の児童を観察することが重要なのだと分かった。その視点を増やせるように、さらに自己研鑽に励んでいきたい。

講義 1

「東部の教育を担う教員として」

東部教育事務所教育支援担当・学力向上推進担当
主席指導主事 秋永 恵里

- 1 はじめに
- 2 東部の教育を担う教員として
 - (1) ステップ・アップしていますか
 - (2) 信頼される教員となるために
 - (3) 児童生徒理解と保護者理解
- 3 ステップ・アップ研修に臨むにあたって
 - (1) 「学び続ける教師」としての姿勢
 - (2) 縦・横のつながりを大切に
- 4 おわりに



【受講者感想】

- ◎東部の教育を担う教員として、意識を高めることができた。教師は責任があり、それと同時に誇りがある職業で、常に学ぶ姿勢を忘れずに自己研鑽に励んでいきたい。
- ◎1年目の自分を振り返り、2年目を迎えた今の自分について深く考えることができた。1年目の経験を生かして、児童理解と保護者対応、そして信頼される教師としての自分の考えを再度確認し、日々の教育実践を実りあるものにしていきたい。

講義 2

「教育公務員としての服務規律と不祥事の防止」

東部教育事務所総務・人事・学事担当

主席管理主事 田村 嘉則

- 1 はじめに
- 2 わたしたちの身分
- 3 教員としての心得
- 4 教員としての服務
- 5 おわりに

1 わたしたちの身分

<職務上の義務>

- ・服務の宣誓
- ・職務に専念する義務
- ・法令等及び上司の職務上の命令に従う義務

<身分上の義務>

- ・秘密を守る義務
- ・争議行為等の禁止
- ・政治的行為の制限
- ・営利企業への従事等の制限
- ・信用失墜行為の禁止



【受講者感想】

- ◎教員という職はやはり児童・保護者のみならず、地域の方々や社会との信頼関係があってこそ成り立つものなので、改めて教育公務員としての自覚を強くもち、職務に当たる必要があると感じた。
- ◎教育公務員としての自覚を持つことの大切さを改めて感じた。学校で行っている倫理確立委員会などの内容も改めて確認し、自分ごととして捉え、絶対に不祥事を起こさないという強い覚悟をもった。

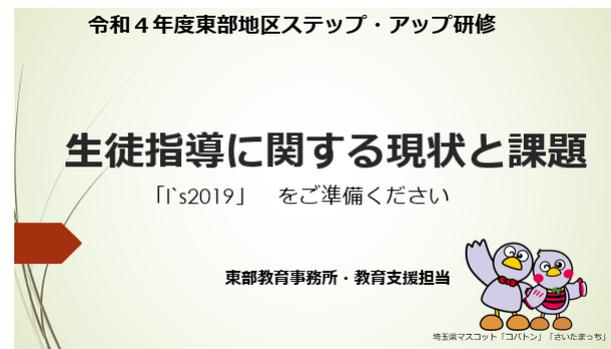
講義 3

「生徒指導に関する現状と課題」

東部教育事務所 主任指導主事

野見山 伸一

- 1 はじめに
- 2 生徒指導とは
- 3 普段の学校生活では、実際にどのようなことをしているのだろうか？
- 4 演習
(生徒指導ハンドブック New I's より)
- 5 おわりに



【受講者感想】

- ◎子供たちが学校に通うにあたり、いじめや暴力は絶対にあってはいけないことである。未然防止に努めるとともに、何か問題があった際には早期発見、早期対応をして、より安全で楽しい学校や学級をつくっていききたい。
- ◎生徒指導と聞くと、何か問題等があった時に該当児童に対して指導するものというイメージがあるが、それだけではないのだということを改めて感じた。日々の子供とのコミュニケーションや学級経営が、子供の自己存在感を育むことや問題の未然防止につながり、子供のSOSにいち早く気づくことができるようになると学んだ。日頃から意識していきたい。

講義 4

「特別支援教育の視点を生かした授業、学級経営の充実」

東部教育事務所 指導主事 秋山 香奈子

- 1 はじめに
- 2 みんなが分かる授業づくり
- 3 特別支援教育に関する情報提供
- 4 (1) インクルーシブ教育システムについて
(2) 合理的配慮の提供について
(3) 交流及び共同学習について
- 5 おわりに

合理的配慮は、障害の診断や障害者手帳を所持する児童生徒だけでなく、障害の可能性のある児童生徒へも提供される

- 「できるか」、「できないか」(0か100か)で考えないようにする。
- どこまでできるのか、何ができないのか、できない理由は何か。
- できないのであれば、代わりにどんな配慮ができそうか。

関係者で合意形成を図る

合理的配慮を実施してからも、評価・改善を行う
(そのためにも個別の教育支援計画・個別の指導計画の役割は重要)



埼玉県教育委員会「コトバ」

11

【受講者感想】

- ◎障害のあるなしに関わらず、一人一人を大切にしたい教育を行っていくことが重要であると感じた。私の担当クラスにも特別な配慮が必要な生徒がいる中で実態を把握し、どう支援していくか改めて考えていきたい。
- ◎「共生社会」の形成に向けたインクルーシブ教育は学校全体で取り組まなければならない課題だと改めて感じた。特に中学校は教科担任制なので、担任、学年、学校での情報共有や保護者との連携は必須である。全ての教員が生徒の特性を理解し、一人ひとりを大切にする教育の推進をしていきたい。

協議 1 「生徒指導に関する課題と指導の工夫」

- ◎生徒指導に関しての対応のポイントを協議した。特に大事であると感じたのは、問題が発生するよりも前に危機に気づくことである。また、問題が起きてしまった場合一人で解決をしようとせず、多くの先生方と協力し解決に向けて動くことが大切である。
- ◎生徒指導での対応のポイントを、同じ2年次の先生と情報交換し、活発に意見を出し合うことができた。新たな視点や、他校の様子や工夫した対応も学べ、有意義な時間となった。

協議 2 「特別支援教育の視点を生かした授業・学級経営における指導の工夫」

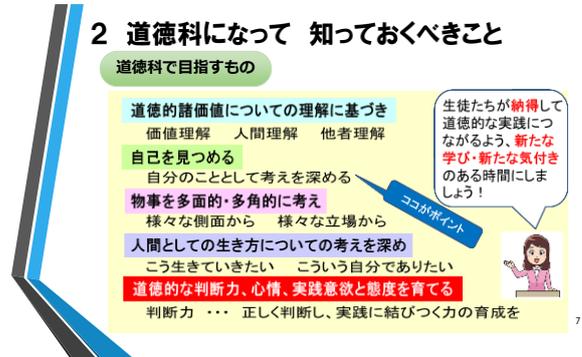
- ◎他の先生の実践の経験や現場での苦労や喜びなど、色々な面を知ることができて貴重な時間となった。自分のこれからの教員生活にいかせる内容ばかりで、同じ2年次の先生が集まり研修を行うことの喜びも感じることもできた。
- ◎特別支援教育の視点で授業や学級経営を考えることの重要性を感じた。協議班のメンバーに、実際に特別支援学級を担任している方がおり、様々な手立てを教えてもらえた。その手立ては、特別支援学級だけではなく、通常学級にこそ、取り入れるべきものもあった。特別支援教育の視点を忘れずに、授業や学級経営を考えることで、子供たちの発達段階にあった声掛けや手助けができると思った。

講義 5

「道徳教育の充実」

東部教育事務所 指導主事 武林 慈子

- 1 はじめに
- 2 道徳科になって 知っておくべきこと
- 3 柔軟な道徳授業をつくるために
- 4 道徳科における評価
- 5 おわりに



【受講者感想】

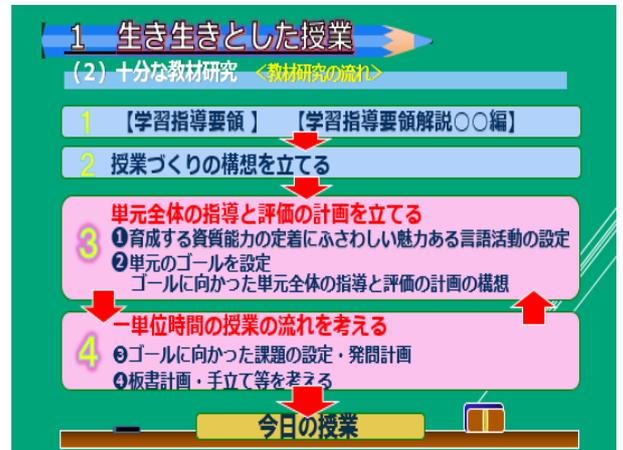
- ◎今、道徳科では豊かな情操と道徳心を培うこと、時代の激しい変化への対応、いじめ問題等の教育課題への対応、道徳科の授業の量的確保、「考え、議論する道徳」への質的転換が求められており、これらのことを考え授業作りをしなければならないと感じた。
- ◎道徳授業を振り返りシートで確認すると、授業研究や教材研究の必要性を強く感じた。講義の中で多くの学びがあった。特に問題を追求する発問の工夫の、発問の立ち位置・4区分は日頃の道徳授業の悩みでもある「発問」の内容を学ぶ上でとても参考になった。

講義 6

「よい授業のポイント（授業づくりについて）」

東部教育事務所 指導主事 飯島 忠

- 1 生き生きとした授業
 - (1) 児童生徒一人一人の理解
 - (2) 十分な教材研究
- 2 よい授業づくりのポイント
 - (1) 「令和の日本型教育」の構築を目指して～主体的・対話的で深い学びの実現～
 - (2) 先人の言葉から学ぶ
 - (3) 授業づくりのポイントチェックシートを活用しよう
 - (4) 刊行物・資料の活用
- 3 埼玉県教員として



【受講者感想】

- ◎講義を聞いて、私自身、心に火がつかしました。昨年からの授業力を上げたくて、先生方の授業を見学している。やはり実際に見たほうが勉強になる。今回の講義を通して、改めてよい授業づくりをするためのポイントが明確にできた。先生方の授業を見る時に、今日の講義の視点に注目して見ていきたい。
- ◎授業を行う上で児童の実態を把握することや教材研究に取り組み、授業を通して児童が何をできるようにさせたいのかをしっかりと考えることが大切である。発問や板書計画、児童の反応やつまづきやすいところがどこなのかしっかりと予測するなど準備することが学習を深めることにつながる。授業の振り返りとして授業チェックシートも活用したい。

講義 7

「先輩に学ぶ」

幸手市立吉田小学校 教諭 三ノ輪 真人

- 1 教科指導・学級経営の資質・能力向上のために
- 2 組織の一員としての資質・能力
- 3 得意分野の資質・能力

<本日の内容～どのように学んできたか～>

(1)教科指導・学級経営の資質・能力向上のために

- ①先輩から学ぶ
- ②授業研究会から学ぶ
- ③研修会から学ぶ
- ④書籍から学ぶ
- ⑤自分の授業から学ぶ・反省する

(2)組織の一員としての資質・能力向上のために

- ①校務分掌を通して学ぶ
- ②教職員評価システムを通して学ぶ

(3)得意分野の資質・能力向上のために

- ①校内研修をきっかけに
- ②実践報告や論文作成をきっかけに

【受講者感想】

- ◎教員としての資質・能力の向上に向けて、先輩教師の授業に学んだり、長期研修に行ったりと様々な行動をしている姿にとっても感銘を受けた。できることから真似をし、自己研鑽に励んでいきたい。
- ◎私も10年後、この先輩のように学び続ける先生でありたい。
- ◎勤務校以外の現場で働いている先輩のお話を聞く機会はあまりなかったので、大変貴重な時間となった。教科指導・学級経営の資質・能力向上のためのあらゆる面からアプローチが大変勉強となった。

受講者代表発表

「教員生活2年目を迎えて」

宮代町立須賀中学校 教諭 林 雄大

- 1 学校紹介
- 2 1年目の成果、課題等について
- 3 1年目の成果をいかして継続していること
- 4 1年目の課題を改善しようとしていること

1年目の課題を改善している
しようとしていること

授業改善

他の先生から学ぶ姿勢

目標設定の仕方 指示の出し方

【受講者感想】

- ◎受講者代表発表を聞いて、2年目としてさらなる授業力の向上とよりよい学級経営をするために、常に学び続けていきたいと思った。
- ◎1年目の成果や課題など、自分はどうかと重ね合わせながら聞くことができた。共感できることが多く、同じように2年目も奮闘している方がいると思うと自分も頑張ろうと思う。自分自身も1年目の頃より、自分がどうしていきたいか考えられるようになってきたので、その実現に向けて今後も励んでいきたい。
- ◎違う場所で共に同じような経験をしている同期という存在は、改めて大切だと感じた。大変な仕事だからこそ、共に励まし合いながら、悩みを共有しながら取り組んでいきたい。

協議 3 「道徳授業における指導方法の工夫」

- ◎道徳の指導法について、同期の先生方と、困り感を持った事例を基にした話合い、意見の交換ができ、非常に有意義だった。今後も研修等に積極的に参加し、児童に豊かな心をはぐくむ教育活動により一層熱心に取り組みたい。
- ◎道徳の振り返りシートを基に日頃の授業の課題について話し合うことができた。発問の工夫に、どの学校の先生も難しさを感じており、意見交換することができ、夏休み中の教材研究にいかしていきたい。また ICT の取り入れ方なども効果的に使う必要があると感じた。

協議 4 「学習指導における実践と今後の課題」

- ◎「よい授業は良い導入から」という言葉を自分の中で常に考えている。協議の中でも導入に力を入れている先生がいて、改めて導入が大事だと再認識することができた。また、ICT の使用が目的とならないように注意していきたいという事を聞いて、まさにその通りだと感じた。生徒の充実した学びのための一つのツールとして活用していくことが大切だと感じた。
- ◎よい授業について意見を交換することができた。授業を行う上で、まず一人一人の生徒理解は重要である。同じ教材でも、クラスの実態によってやり方を変えることも必要であると感じた。また、ICT を使った授業や学習指導の課題点、工夫点、解決策なども話し合った。ICT はこれからの時代を生きる子どもたちには必要不可欠である。ICT の活用を目的とするのではなく、子どもたちの学びのためにどう活用するか考えていきたい。

【受講者感想】は、標記の都合上、文末等を変更しています。



6 受講者のアンケート結果

質問項目	回答 (%)				平均
	4	3	2	1	
1 研修に意欲的に参加することができた	81.2	18.8	0	0	3.81
2 研修の内容は、実践的で役立つものだった	77.5	21.4	1.1	0	3.77
3 研修に参加して疑問や不安を解消できた	46.2	49.1	4.7	0	3.42
4 研修で学んだことを今後に生かしたいと思う	87.0	13.0	0	0	3.95
5 研修に満足している	70.0	28.4	1.6	0	3.68

* 4 (あてはまる) ←→ 1 (あてはまらない)

7 成果

- ◎ コロナウイルス感染拡大防止のため、オンライン型研修に振り替えたが、講義動画と班別協議を組み合わせた研修を行い、受講者の実践的指導力等の向上を図ることができた。
- ◎ 全講義が教員としての資質・能力を向上させるための重要な内容で、2年次の教員にとって、昨年度の教育活動を見直す契機となり、同時に今後の実践に示唆を与えるものであった。
- ◎ 講義動画（午前）で得た知識を基に、研究協議（午後）をしたことで、1日を通して体系的な研修を行うことができた。受講者の理解が深まり、教員としての知見が広がった。
- ◎ 講義「先輩に学ぶ」は、講師の熱意ある言葉から、教師としての魅力ややりがいを再確認することができた。教員としての資質能力を伸ばすための具体的な手立てを知ることができた。
- ◎ 受講者代表発表「2年目を迎えて」では、成果や課題を共有するとともに、優れた具体的、実践的な取組に触れることができた。

8 課題

- ◎ 欠席者は、第1日14名、第2日13名であった。主な理由は、体調不良による欠席であった（欠席者は、後日講義動画を視聴し内容をレポートにまとめ提出する）。
- ◎ コロナウイルス感染拡大防止のため、参集型からオンライン型に切り替えた。研修会場は、感染状況を見定めながら、適切に設定していくことが必要である。
- ◎ オンライン型研修の工夫や内容の充実を検討し、研修の質的な充実を更に図っていく。参集型研修からオンライン型研修に切り替わっても充実した研修内容となるよう、引き続き準備をする必要がある。